

## えんがわフェスタ2022 開催報告

社会や、地域の課題解決につなげていくための市民交流事業「えんがわフェスタ」を昨年11月16日(日)に開催しました。今年は、地域で求められている居場所や必要な関りについて、市民の方と一緒に考えるため、市内にある子育てに関わる居場所、青少年に関わる居場所、多世代に関わる居場所を、3つのグループに分かれてまわる居場所見学ツアーを実施しました。

見学をさせていただいた施設と、その振り返りをご報告します。



## 子育てに関わる居場所



こくりょう子ども食堂わいわい



子ども食堂かくしょうじ

🏠 こくりょう子ども食堂わいわい 10:00~11:00

国領地域の子どものために、地域の皆さんと一緒に運営している子ども食堂です。この日は、クリスマスフードパントリーの打ち合わせの様子を見学させていただきました。

🏠 FUJIMI LOUNGE 13:00~14:00

お洒落で落ち着いた雰囲気の中で、美味しいキーマカレーを食べながら、調布市のまちづくりプロデューサーがオープンした地域の人と文化をつなぐ「まちのリビング+カフェ」というコンセプトを体験しました。

🏠 子ども食堂かくしょうじ 14:00~15:00

名前の通りお寺を開放して運営している子ども食堂です。住職の細川さんより、食堂を始めたきっかけや、これまでの様々な取り組みについてお話をお聞きしました。多い時には100人を越える人が集います。地域の関係機関とも連携が深く、必要に応じて支援につなぐこともあるそうです。

## 青少年に関わる居場所

🏠 青少年ステーションCAPS 10:00~11:30

CAPSは「家」でも「学校」でもない、中・高校生世代が「安心安全」に「過ごすことができる第三の居場所施設です。今回は、普段は大人が入れない場所を特別に見学させていただきました。

🏠 ほんのもり 14:00~15:00

早稲田大学在学中に知り合った友人3人で作った、緑ヶ丘団地内の図書館のような場所「ほんのもり」は、2018年10月にオープン。昼間は使い方自由なフリースペースで、夕方からは学習塾に。

地域に開かれた、自由な居場所を見学させていただきました。

## 多世代に関わる居場所

🏠 POSTO 10:00~11:00

仙川駅近く、郵便局の向かい側にオープンした、多世代が交流するコミュニティ・カフェ(スペース)。地域の人たちが集い、新たな取り組みが続々と生まれています。代表の田中さんにお話を伺いました。

🏠 1000+1 BOOKS(センイチブックス) 12:00~13:00

100個の本棚1つ1つが小さな本屋さん。そこには棚主さんそれぞれの個性があふれています。大型書店や図書館とは違った本の世界を見学させていただきました。

🏠 しばさき彩ステーション ※センター運営委員による紹介のみ  
地域住民が主体となり、地域課題に気づき、人と人が繋がるまちづくり活動を行っています。



POSTO



青少年ステーションCAPS



ほんのもり

## 団体フィードバックと全体シェアリング

全ての居場所を見学したあとは、市民活動支援センターに集合し、参加者全体で感想の共有と、団体への感謝の想いを伝えるためのフィードバックメッセージの作成を行いました。

それぞれのグループがグループ毎の方法で伝え方を検討し、形にしました。子育てに関わるグループは、各団体への感謝状と見学を通じて得た気付きを集めたメッセージカード。青少年に関わるグループは、メッセージと写真を組み合わせたフォトブック。多世代に関わるグループは、りんごのメッセージツリーを製作しました。

手づくりの  
メッセージツリー

## 参加者からの感想コメント

全体として、振り返りの時間を持ったり、訪問先へのメッセージを書くなど、単に訪問して終わりではなく、お互いが交流し縁をつくっていくという意図がありました。地域への愛着も高まったと感じています。

POSTOさんに関しては何でもやりたいことやろうよ!というポジティブな発想やマインドが凄いいきに入りました。個人的に通いたいと思っており、他のグループの人と交流するお時間も時間内にあるとより、よかったかなとも思いました!

多世代交流の新しい場所を見学できて、その運営内容、空間を経験でき楽しかったです。グループでの自己紹介も和気あいあいとでき、その後の行動がほんわかとした雰囲気となれました。他グループの見学内容と感想が聞けたのも良かったです。特にCAPSの施設の活用に羨ましさを感じました。



## えんがわフェスタ その後・・・新たな出会いがありました

地域で何かできる事がないかと考えていた時に、「えんがわフェスタ」の開催を知りました。見学した場所は「お客様」と「運営者」の立場ではなく、地域の“みんな”で作られている場所ばかりで感動しました。市民活動支援センターも、今まで関わりがなかった場所でしたが、お話しすると皆様優しく、積極的なサポートをいただいています。これからも調布のまちに何か還元できるように、チャレンジしていきたいと思えます!



えんがわフェスタに参加して、調布市内には多様な人に寄り添う素敵な「居場所」があることを知りました。また、「居場所」は利用する人だけでなく、運営する人の「居場所」になっており、それは場所を問わず、人のつながりにより形成されるものだと感じました。今回の参加をご縁にフードパントリーのボランティア活動に参加し、「人とつながり、まちを元気にする」という私の活動の後押しをしてもらった機会となりました。



私はフェスタをきっかけに、自分のスキルや興味を活かせる場を探し始めました。センターの方は快く相談に乗ってください、今は実際に地域で活動しています。「自主的に、無理のない活動で人とつながる」ことは気持ちがよく、また、「小さな実績」を積みよいチャンスにもなっています。私は今30代ですが、キャリアの種まきや自己受容感の向上といった視点でも地域活動を見るようになり、以前とは印象が変わったと感じています。



えんがわフェスタ2023は今秋に開催予定です。開催情報は、市民活動支援センターホームページ、Twitter等でお知らせします。楽しみにお待ちください!